

# 大規模施設の挑戦

～キーマンは10人の副主任～

社会福祉法人 董風会  
特別養護老人ホーム 風の家



## 1. 取り組み経過

【1年目】

2020年4月 施設長自ら、ノーリフティングケアの取り組みを計画。  
ご利用者、施設で働く職員が笑顔で一日でも長く施設で共に  
生活を送れるようにと、この取り組みは始まった。

8月 ノーリフティングケア研修に参加

2021年1月 スライディングボード 18枚(各ブロック)  
シートの購入 18枚(各ブロック)

2月 入浴用リフトの購入 8台(各ブロック)

3月 床走行リフトの購入 8台(各ブロック)

【2年目】

4月 **ノーリフティング委員会再編成**

8月 ノーリフティングケア研修に参加(2年目)

11月 グローブの購入 86組(全介護職員)

## 2. 1年目を終えての課題

### 部署ごとの温度差

進捗状況に差が出た

### 腰痛への意識低下

ヒヤリハットが消滅

### 福祉用具の活用不足

福祉用具はそろったが活用が  
少ない

### 技術不足

シートやボード、身体の使い方  
など技術が未熟

## (1) 部署ごとの温度差→ノーリフティング委員再編成

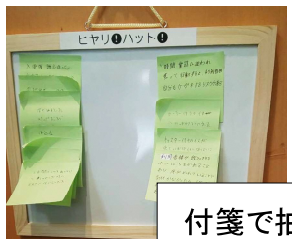


## キーマンは10人の副主任

- 元々、部署を取りまとめる立場の副主任が直接部下を指導したことで浸透しやすくなった。
- 副主任が各部署の課題を吸い上げ、委員会で検討することで現場の意見も取り入れ、現実的な解決策を模索することができた。
- 個性豊かな副主任たちがリーダーシップを発揮することによって小規模グループのメリットと大規模グループのメリットをうまくリンクさせることが出来た。

## (2)腰痛への意識低下→腰痛ヒヤリハットの抽出と共有方法を変更

昨年度 ホワイトボード



付箋で抽出

今年度 共有サーバー

日付	部署	ひやりとしたこと 痛かったこと	分類 利用者 スタッフ 環境	アドバイス (誰でも記入可)	P:計画 (アドバイスを基に上でのD:実施期間 対応)	C:評価 (実施してみてどう だったか)	A:結果 (継続して 見直し)	
10月7日	2A	浴室への入り口に傾斜がある為、車椅子のご利用を希望する方が座り辛い。ストレッチャーが狭い為、ストレッチャーから大きい為困りを感じながら押す為座りにキツイ。	スタッフ	ストレッチャーを両側から押して、腰の負担軽減を図ってはどうか。一人では押すのが大変な方を見守りながら押す。両側、実施してゆく。	ストレッチャーの足から押し上げてみる方法をスタッフ間で共有して行っている。2名で押せる場合は2名対応している。	今般年10月7日 10月28日	腰への負担が軽減された。	終了

共有サーバーで抽出

デスクトップから気軽に、誰でも閲覧・入力可能

他部署のリスクも共有

PDCAサイクルをそのまま実践

職員が目にする機会が増え、腰痛に対する意識が高まる。

## (3)福祉用具の活用不足・技術不足。→勉強会を開催。

施設全体の取り組みである事を実感でき、部署内で煮詰まっていた気持ちや孤独感が解消された。技術レベルの向上のため、今後も継続していく予定。



知りたいことが知れた。

体が楽になった。

勉強会をもっと増やしてほしい！

## 3. 2年目を振り返る

### 根付いていた基礎

1年目は課題をクリアしていくことに必死だった。2年目の取り組みを実践している中で、理解度チェック等を通して職員の中にノーリフティングケアの考え方が浸透していたことに、あらためて気づいた。

### 既存の組織体制の活用

委員会を再編成し、既存の組織編成を活用する事で部署間の温度差が解消した。

### 部署を越えた交流

コロナ禍で部署間の行き来を制限しているが、勉強会のみ感染対策の上に実施。技術を習得する楽しみや部署を超えて相談し合える場となった。

### 達成感

入居者の変化、職員の変化が目に見えるようになってきた。変化を実感でき、新たなモチベーションへとつながった。

## 4. ノーリフティングケアが浸透した結果

### (1) 入居者の変化

#### 〈Before〉

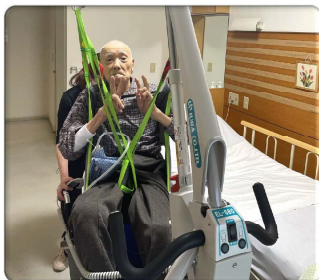
(人力での移乗・抱える介助)

- ・表情は陰しく、苦痛表情。
- ・「重たいでしょ？ごめんね。」

#### 〈After〉

(福祉用具での移乗・リフトを使用)

- ・表情は穏やか。苦痛表情は無く笑顔で応答。
- ・「これなら安心ね。」  
「あなた達の身体を痛めなくて済むね。」



### (2) 介護職員の変化

#### 〈Before〉

(人力での移乗・抱える介助)

- ・抱え上げ介助中は入居者に対する負担の意識が低かった。
- ・腰痛の悪化。

#### 〈After〉

(福祉用具での移乗・リフトを使用)

- ・介助者にゆとりができ、移乗中の入居者の表情や言動などの些細な変化に気付けるように。
- ・腰痛が改善・減少。



ノーリフティングケアへの意識向上と、ひとりひとりの意識改革へとつながった。

## 5. 大規模施設3年目の課題

介護技術の更なる向上

腰痛が減る取り組みの実践

マネジメントの継続

地域への普及



利用者・職員の双方にやさしいケアへ